パネルディスカッション モデレーター・パネリスト略歴

モデレーター プロフィール

吉富 志津代(Shizuyo YOSHITOMI)

NPO 法人多言語センターFACIL 理事長。関西学院大学非常勤講師。神戸大学修士(国際学)、京都大学博士(人間・環境学)。外国語大学卒業後、在神戸アルゼンチン総領事館など中南米の領事館秘書を経て、スペイン語講師やスペイン語での日本語講師。

1990年の入管法改正以来、急激に増えた日系中南米人の支援として、スペイン語による関西生活ガイドブックの監修などの活動を始める。1995年の震災後は、外国人救援ネット設立やコミュニティ放送局「F Mわいわい」の発足に参加。同局の多言語番組プロデューサーに就任。その市民活動の延長で、主に多言語環境の促進や外国にルーツを持つ青少年育成のための活動を切り口に、外国人自助組織の自立支援活動に従事し、これを主な研究テーマとする。その他の役職は、NPO法人多言語センターFACIL代表、ひょうご市民活動協議会共同代表、NPO法人たかとりコミュニティセンター常務理事、財)兵庫県国際交流協会運営委員、財)兵庫県人権啓発協会人権問題研究アドバイザー、兵庫県生涯学習審議会審議委員、移民政策学会理事など。財)阪神・淡路大震災記念協会推進委員(2000年~2005年)、国立民族学博物館共同研究員(2003年~2005年)共著書として、『「多文化パワー」社会』明石書店,2007.9、『現代地域メディア論』日本評論社、2007.12 などがある。

パネリスト プロフィール

坂中 英徳 (Hidenori SAKANAKA)

外国人政策研究所所長。慶応義塾大学大学院法学研究科修士課程修了。1970 年、法務省入省。1975 年、入国管理局論文募集で「今後の出入国管理行政のあり方について」が優秀作となり、その後「坂中論文」と呼ばれる政策提言を法制化し実現。入国在留課長、名古屋入国管理局長、東京入国管理局長などを歴任。2005 年、法務省退職。同年、外国人政策研究所、脱北帰国者支援機構を設立。現在、民間人の立場から、人口減少社会の外国人政策に関する研究および提言を行っている。2008 年 6 月、自民党人材交流推進議員連盟(中川秀直会長)に協力し、日本型移民政策(人材育成型)を提出した。

著書、『移民国家ニッポン』(日本加除出版、2007)『出入国管理及び難民認定法逐条解説 改訂第3版』(日本加除出版、2007)『入管戦記』(講談社、2005年)『外国人に夢を与える社会を作る・縮小してゆく日本の外国人政策』(日本橋報社、2004年)『日本の外国人政策の構想』(日本加除出版、2001年)『国際人流の展開』(日本橋報社、1996年)『今後の出入国管理行政のあり方について一坂中論文の複製と主要論評』(日本橋報社、1989年)。

イシカワ エウニセ アケミ (Eunice ISHIKAWA Akemi)

静岡文化芸術大学文化政策学部准教授。ブラジル生まれ。1987年に国費留学生として来日。東京外国語大学付属日本語学校(日本語)、筑波大学(学部)、東京外国語大学(修士課程)、お茶の水女子大学(博士課程)、立教大(研究員)で勉強。00年~05年3月まで鹿児島国際大学国際文化学部助教授を経て、現職。日系ブラジル人のエスニック・アイデンティティの形成過程を研究している。現在、在日ブラジル人第二世代の生活実態に焦点を当て、日本における「多文化共生」の在り方を探求している。

専門分野:移民研究、国際労働力移動、エスニシティ、ポルトガル語。

田中 ネリ (Neri TANAKA)

認定臨床心理士。現在、千葉メンタルクリニック、四谷ゆいクリニックにおいて臨床心理士として勤務。ボリビアのラパス市生まれ。高校卒業後来日。上智大学文学部教育学専攻、修士号取得。入管法改定後、在日ラテンアメリカ人の定住化に伴い、精神科クリニックで彼らのメンタルヘルスに携わる。現在、ラテンアメリカ人が多く集まる教会でカウンセリングを実施したり、遠方の相談者のために電話相談などを提供している。また、スペイン語新聞にメンタルヘルス記事を掲載するなど深く臨床の場に関わっている。研究活動としては、描画テスト(S-HTP)によって見られる在日ラテンアメリカ人児童の精神状態と精神発達を研究している。

著書・論文、「こころと文化」2003 在日ラテンアメリカ人の滞在長期化と帰国の動向、「異文化間カウンセリングの今日課題文化間教育」2004 在日ラテンアメリカ人の子ども一その背景と支援、明治学院大学心理学部付属研究紀要 2007 S-HTP でみる在日外国人児童のこころーボリビア人児童との比較。

森田 京子 (Kyoko MORITA)

青山学院大学大学院、非常勤講師等。ペンシルベニア大学大学院(University of Pennsylvania, Graduate School of Education, Program of Education, Culture, and Society)修了。教育人類学博士(Ph.D., Educational Anthropology)。ペンシルベニア大学在学中から外国語としての日本語教育に従事し、修士課程で社会言語学、第二言語習得、異文化コミュニケーション等を学び、博士課程でフレデリック・エリクソン博士よりアーバン・エスノグラフィーの訓練と論文指導を受ける。特に日本社会のエスニック・マイノリティーを研究対象とし、定住マイノリティーのエスニシティー、アイデンティティー、文化適応プロセスなどを、エスノグラフィックな視点から調査研究している。

著書、論文、『子どもたちのアイデンティティー・ポリティックス: ブラジル人のいる小学校のエスノグラフィー』 2007. 新曜社、「第七章: エスノグラフィー」, 立田慶裕(編)『教育研究ハンドブック』, pp. 80-91, 2005. 世界思想社、「アイデンティティー・ポリティックスとサバイバル戦略: 在日ブラジル人児童のエスノグラフィー」, 無藤 隆・やまだ ようこ・麻生 武・南 博文・佐藤達哉(編)『質的心理学研究』第 3 号, pp. 6-27, 2004. 新曜社、Negotiating identity politics: Exploring Brazilian children's experiences at a Japanese school. 2002. Doctoral dissertation, University of Pennsylvania, Philadelphia. (UMI No.3043918). Ann Arbor, MI: UMI Dissertation Services.